

に交代で夜警巡視をされておると聞いております。年末夜警巡視につきましても各消防団での実施方法等に差がありますので、揖斐川町消防連合会議において調整・協議を行うことといたしたいと思います。

最後に、消防車などの配置式の件でございますが、配置式については、各分団で出席可能な団員で実施をし、決して無理をして出席するよう要請をしておるわけではございません。いずれにいたしましても、各消防団とも伝統があり、個々の考え方もありますので、今後の各行事、訓練等のあり方については、アンケータの実施をするというより、合併した揖斐川町消防連合会議で十分検討をお願いするようにしていきたいと思っております。

問 林道整備について

町長は先の議会の中で中井議員の質問に、町の森林ビジョンを描き、必要な施策で森林所有者などをバックアップしながら森林整備を進めていきたいと答えていました。また、8月の全員協議会でも、本町は町の93%を占める470平方キロの森林の恵みということで、森林林道整備を交付金の事業として乗せておりますという説明でした。しかし、その日の全員協議会で水資源機構から徳

山ダムについて説明があり、旧徳山村の住民に林道をつくりますと約束しておきながら、離村した後で反対もあつたが、旧藤橋村でつくらないことに決定したということでした。地権者に見れば林道はぜひ必要だと思えます。

また、ダムの周辺の山林を全部公有地にする計画みたいですが、旧徳山村の住民、土地を手放したくない、たまには自分の生まれ育ったふるさとを見たい、帰りたいというのは当たり前ではないでしょうか。徳山ダム周辺も林道整備がぜひ必要だと思います。旧徳山村も今は揖斐川町です。揖斐川町の森林を守るために、ぜひ町長からも水資源機構に当初の予定どおり林道をつくるよう要望していただきたいのですが、いかがでしょうか。

また、そのときの水資源機構の説明では、林道のかわりにフェリーを計画しているということですが、ダムにフェリーを運行するなど、とても非現実的ないい加減な説明だと思えます。町長、議長は、前もって聞いていると思えますが、フェリーの運行、本当に可能だと思っているのですか、お伺いいたします。

答 宗宮孝生町長

徳山地域においては、現在、岐阜県において自然生態系を保全し、森林の

水源涵養機能の維持・向上や、自然環境を守るため、平成12年度に創設されたダム周辺の山林保全措置制度を適用して、徳山ダム上流域の公有地化が実施されようとしているところでございます。この制度は、ダム建設による付け替え道路のかわりに、ダム周辺山林の取得及び当該山林の管理をすることが可能になっているところであります。岐阜県と水資源機構、藤橋村、下流域25市町村の間で平成13年3月29日に徳山ダム上流域の公有地化に関する確認書の締結がなされております。また、同日に旧藤橋村議会においても公共補償協定の一部を変更する協定書締結の議決がなされているところでございます。合併後、新揖斐川町

といたしました。こうした旧藤橋村の基幹決定をなされた事項を尊重するとともに、旧徳山村民の皆様方の望郷の念を大切にしながら、円滑な事業が進められるよう必要な事項について働きかけてまいりたいと考えております。

尚、フェリーの件は、私も議長も事前に聞いてございません。

高橋毅議員

問 山間部の農業振興について

新揖斐川町は平たん部と山間地があり、そして気象的にも寒暖の差が

あるなど、立地的には大きな格差がございます。農業の形態にいたしましても、農地の集約的利用と機械化による粗放的利用の部分があると思えます。でありますから、揖斐川町の農業行政について十把一からげにいかないとかがあると思えます。

そこで、行政に望むことといたしまして、今後は自然に恵まれ変化に富んだ揖斐川町でございますから、観光交流産業的要素も取り入れた農業や、昨今盛んに言われるようななりましたスローライフの考え方から、滞在型農業体験を取り入れたグリーンツーリズムなどを導入し、地産地消、安全・安心・健康のほかに、楽しい農業、希望の持てる農業をキーワードに加えた農業振興を推進していただきたいと思うのであります。また一方、畜産関係であります。BSEの関係から牛肉の輸入もままならない状況の中、最近、和牛の子牛をとる生産事業が見直されているようにございます。過去には、揖斐郡は和牛の生産について盛んでありましたので、経験者、そしてノウハウを持った高齢者が多いことから、生きがい対策といたしまして、和牛の生産事業について農協と連携して普及させたらどうかと思うのであります。このように立地的にも社会的にも厳しい状況の中でも、山間部の農業を守ろうと頑張っているグループや地域もございます。合併を機に、特に山間部の農業振